

Journalizing and Posting Transactions

3.1 Introduction (はじめに)

前の章で学習したT勘定には弱点があります。T勘定では確かに残高などが各勘定ごとにすぐに計算できますが、月初から月末にかけて入力した取引を、後からある特定の日時に限定して見直したいとき、T勘定または元帳では困難です。例えば、1月17日の取引を全部見たいと思っても、T勘定または元帳では見つけるのに時間と手間がかかります。そこで発生順別(Chronological Order)に取引を入力しておきます。この作業を仕訳(Journalizing)といいます。仕訳を入力するフォーム(表)を仕訳帳(Journal)といいます。

ポイント

- 仕訳帳は元帳の前に作成します。
- 仕訳帳に取引を入力する場合、T勘定入力と同じく Debit と Credit で入力します。
- 米国では簿記を学習するとき、Debit, Credit の符号(プラスとかマイナス)を暗記しやすいT勘定のフォーマットで学習します。
- 簿記の流れ：Transaction(取引) → 仕訳入力(Journalizing) → 仕訳帳(Journal) → T勘定入力(元帳) → 試算表(Trial Balance)

We showed the effects of transactions by making entries in T accounts. However, these entries do not provide the necessary data for a particular transaction, nor do they provide a chronological record of transactions. The missing information is furnished by the use of an accounting form known